



通学定期 最大10%値上げも!!

とき 2012年 12月8日(土) 午前10時~12時(開場 9時半)

ところ 県民会館(富山駅から徒歩10分) 5階 509号室

講師 岡本勝規氏(公共交通を良くする会、交通政策)

演題「北陸新幹線金沢開業後に在来線はどうなるのか

—並行在来線問題と富山県の経営計画案—

概要 : 北陸本線の直江津~金沢間は並行在来線として、2014年度の北陸新幹線延伸開業と同時に、JR西日本から経営分離される予定です。経営分離後の並行在来線の運営について富山県は、第三セクター鉄道で運営を引き継ぐとして、その経営計画素案(最終)を2012年11月に発表しました。県はこの経営計画案を、2013年1月には確定させたい意向です。つまり、我々富山県民は新幹線と引き替えに、100kmに及ぶ県内鉄道幹線を、ほぼ自力で維持していく最終的な決断をしようとしているのです。東海道新幹線や上越新幹線が整備された時には、そのようなことは生じませんでした。ではなぜ、富山県では生じるのでしょうか? そのようなことが生じて問題はないのでしょうか? そもそも北陸本線の運営責任は県民に帰さねばならないのでしょうか? 今回は、経営分離政策の歴史的概観や、鉄道利用者への影響を紹介しつつ政策の妥当性と生じる課題をお話します。更に、政策見直しの動きとともに県の経営計画の問題点にも言及し、並行在来線の運営のあり方を考えていきたいと思えます。

会場からの質問にも答えます。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

主催 日本科学者会議富山支部

問合せ先、林 節男 ([sehaya あつと pu-toyama.ac.jp](mailto:sehaya@pu-toyama.ac.jp)) 亀田悦正 ([etuma123 あつと ma.net3-tv.net](mailto:etuma123@ma.net3-tv.net))

後援 : 公共交通を良くする会

1. 人類の生存と平和的繁栄のために、研究を行い、社会へ働きかける

この地球上で環境を守り人類が永続的に生存するために研究を行うことは、科学者の社会的な責任です。様々な要因による破壊から環境を守り、貧困や飢餓、病気、社会的不平等をなくし、戦争のない平和な社会の実現、また、人間としてより豊かな生活が保障される社会の実現のために、研究や教育、社会への働きかけを行うことが、JSAの活動目的の一つの支柱です。そのためにJSAでは分野をこえて科学者が集まり、地域でも、全国でも活動しています。



科学技術政策シンポ「高学歴ワーキングプアの解消を目指して」を共催(2010年)

東日本大震災・原発事故後、緊急シンポを全国各地で開催した(2011年・東京)

本会刊行の多数の出版物

2. 高等教育と科学・技術の真の発展のために、発言し行動する

現在の日本の科学技術政策や高等教育政策では経済効率のみが尺度とされ、教育・研究機関は競争原理や評価制度に縛られて、自治や研究教育本位の運営が損なわれ、学問と社会の関係のあり方が歪められています。科学を人類に正しく役立てるという視点から、このような動きに反対し、関係団体とも協力し、科学・技術の研究や大学のあるべき姿について発言し運動すること、科学者や学生・院生の権利を擁護することが、JSAの活動のもう一つの柱です。

3. 科学者としての力量を、会員相互が協力して高めよう

教育研究機関に所属する研究者は、論文数や獲得した研究資金といった一面的基準による業績評価に追いつかれて、孤立させられています。狭い領域で目に見える成果は出せても、学問や科学のあり方を深く考え、視野の広い研究者をめざすのは困難です。これでは研究者としての生き甲斐を容易に見出せません。JSAでは、科学の普遍的な価値と科学者の社会的責任を自覚し、今日の社会でそれをどう具体化するか模索し、科学者が相互に支え合って、活動を通じて成長しあえる組織づくりに努めています。それが、専門学会にはないJSAの特徴であると自負します。

4. 若手や女性研究者を励まし、ともに成長し、科学と研究教育の場を継承発展させる

JSAでは、次代の社会を形成し科学を担う若手層を励まし、ともに成長することを重視しています。院生・若手研究者は、研究の仕方や研究室での人間関係、将来の進路など、多くの悩みをいただくものです。しかし、専門研究に忙殺され、悩みをひとりで抱えてしまいがちです。しかも、高学費と劣悪な奨学制度、任期付や非正規雇用の常態化、雇い止め、理不尽な競争と評価などの歪みの中で、若手や女性が当たり前前に教育研究に当たるのも困難なのが現状です。

JSAは毎年「若手夏の学校」を開催するなどし、異なる分野を専攻する院生・若手研究者が全国から集い、お互いの研究の紹介・ベテラン研究者からのメッセージ・研究の方法についての議論、社会の諸問題に対する科学者のあり方など、充実した内容で活発に交流しています。若手や女性の委員会も設置され、企画の立案実施や政策提言などを行っています。若手や女性研究者、非常勤の研究者など困難な立場の方が、異なる分野・職場・年齢層の人々との議論と協力を通じて、広い視野で学問を考え、科学者としてともに成長できることに、JSAの特徴があります。

5. 各地域・分野で科学的活動を担っている市民・技術者・専門家とともに歩む

JSAは、現代社会に蔓延する非科学・反科学の潮流を批判し、科学的精神を持ち、主権者にふさわしい知識と判断力を備えた国民の育成をめざして、学校教育や社会教育の実践やその改善に取り組んでいます。また、平和、環境・農業、医療・福祉、人権、まちづくりなど、様々な分野で科学的活動を担っている市民・技術者・専門家の方々も積極的に入会し、地域でも全国でも活動を進めています。多くの退職した研究者も、こうした社会活動に活躍しています。

